

1. 日時 令和5年10月11日(水)第4時限(11:45~12:30)

2. 場所 第1学年1組教室

3. 学年・組 第1学年1組(25名)

4. 単元名 がっきとなかよし〜いろいろなリズムのかさなりを楽しもう〜

5. 単元の目標

色々なリズムを重ねて合わせるによって表現することができる。

打楽器を使って楽しく演奏をすることができる。

6. 単元について

・児童について

本学級の児童は音楽活動に意欲的な児童が多く、体を揺らしながら歌ったり、楽器を演奏する楽しさを感じたりしている。歌唱活動においては「ドレミの歌」「うみ」で歌詞の意味を理解したり歌詞の表す様子や気持ちを想像したりして、身体表現をしながら歌う練習をしている。これまで児童は「しろくまのジェンカ」で拍の流れに乗ってみんなで同じリズムを打ったりするなどのリズム遊びを経験している。

児童に楽器演奏の経験についてアンケート調査した。(回答23人)

①ようちえんやほいくえんで楽器をつかってえんそうしたことがありますか。

- ・ある(21人)
- ・ない(2人)

②つけたことのあるがっきすべてに○をつけてください。(複数回答あり)

- ・トライアングル(7人)
- ・すず(10人)
- ・タンバリン(10人)
- ・その他(たいこ4人、ピアノ2人、キーボード、こだいこ、シンセサイザー、ドラム各1人)

③がっきで、「タンタンタン」や「タンタタタン」などのリズムをうつことにじしんがありますか。

- ・じしんがある(10人)
- ・ふつう(6人)
- ・じしんがない(4人)

アンケート結果から、幼稚園や保育園で楽器演奏の経験がある児童がほとんどであった。またトライアングル、すず、タンバリンの各楽器も児童の半数は演奏の経験がある。楽器でリズムを打つことについては自信があると答えた児童は10人半数ほどいるが、自信がない、分からないと答えた児童は7人いる。そのため、楽器の演奏経験はあるが、リズムを打つことにおいては自信がある児童と自信がない児童の差があるといえる。

これまで児童は授業でみんなで同じリズムを打ったりするなどのリズム遊びを経験している。しかし、まだ違うリズムを同時に打って表現するという学習経験はない。そこで、児童にとって馴染み深い「きらきらぼし」に合わせて色々なリズムを打って音楽をつくるという授業を設定した。また、楽器ごとにリズムを設定することで、演奏に自信のある児童がみんなに教えたり、あまり自信がない児童も一緒に安心してリズムを打ったりできるので、どの児童にとっても取り組みやすいと考える。この題材を通して、楽器の音色の良さや面白さを感じ取り、色々なリズムを打って表現する力を児童に身に付けさせたい。

・題材について

この題材は、曲に合わせて打楽器を使って色々なリズムを演奏する題材である。「小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の目標と内容 A 表現(2)ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。(ア) 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能 (イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (ウ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付ける」ことに適した題材である。また、グループごとに表現を工夫することによって、「ア 音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。」も身に付けることができる。

・教材曲について

教材名: しろくまのジェンカ(演奏)

きらきらぼし(演奏)

アイアイ(歌唱・演奏)

教材曲の特徴と選定の理由:

「しろくまのジェンカ」は既習曲であり、全員で同じリズムを打つという特徴がある曲である。リズムを打つ1時間目の授業の導入として最適である。

「きらきらぼし」は児童にとって馴染み深い童謡である。また12小節と短い曲であるため、いろいろなリズムを同時に打つ練習に最適である。

「アイアイ」は歌詞に「アイアイ」という言葉があり、掛け合いが楽しい童謡である。言葉に合わせて楽器を鳴らすことによって、楽器の音色の良さや面白さを感じ取ることが出来ると考えられる。

7. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
- 楽器の音色の良さや面白さを感じ取って、それを活かして演奏することができる。 - 一定のリズムを他のリズムと同時に演奏することができる。	歌詞の表す様子、音色やリズムと曲想の関わりから曲想にあった音を探して表現している。	互いの音や演奏の仕方を比べながら表現し、様々なリズムの重なりを感じ取って楽しみながら主体的、協働的に学習活動に取り組もうとしている。

8. 単元計画(全4時間 本時 3/4 時間目)

時	学習活動	評価規準
1	○色々なリズムを打ってリズムの重なりを楽しむ。 ・しろくまのジェンカ(カスタネット)を全員で同じリズムを打つ。 ・いろいろなリズム(「タンタンタン」や「タンタタタン」など)をリズムカードを使って手拍子する。 ・先生だけが違うリズムを打つ、グループに分けてそれぞれ違うリズムを打つなどパターンを変えてする。	様々なリズムの重なりを感じ取って楽しみながら主体的、協働的に学習活動に取り組もうとしている。(主体的に取り組む態度)【観察】
2	○色々な楽器を体験して音色の良さや面白さを感じて表現する。 ・すず、トライアングル、タンバリン、カスタネットをしろくまのジェンカに合わせてたたく。 ・おもしろいと思った音を全体で共有する。 ・アイアイの曲に合わせて色々な音を鳴らす。	楽器の打ち方を工夫して、いろいろな音を見つけてることができる。(主体的に取り組む態度)【観察】
3 (本時)	○楽器の音色を活かして演奏する。 ・教材「きらきらぼし」を歌う。 ・決めた楽器を使ってリズムを打つ。 ・楽器ごとにリズムを発表する。 ・音を工夫する。(音の大きさや打ち方を変えて音の出し方を変えたり、曲の最後に星をイメージした音を入れたりする。)	一定のリズムを他のリズムと同時に演奏できる(知識及び技能)【観察】 自分で探した音を曲の中に取り入れている。(思考力・判断力・表現力)【観察】
4	○みんなで演奏することの良さを感じとる。 ・3 時間目と楽器を変えて演奏をする。 ・楽器ごとにリズムの確認をする。 ・みんなで演奏する。 ・ふりかえりをする。 ・感想をみんなで共有する。	楽器の音色の良さや面白さを感じ取って、楽器の音色に気をつけて表現する技能を身につけている。(知識及び技能)【観察】 歌詞の表す様子、音色やリズムと曲想の関わりから曲想にあった表現の仕方について思いを持っている。(思考力・判断力・表現力)【ワークシート】

9. 本時の指導

(1) 本時の目標

- 一定のリズムをほかのリズムと同時に演奏できる。

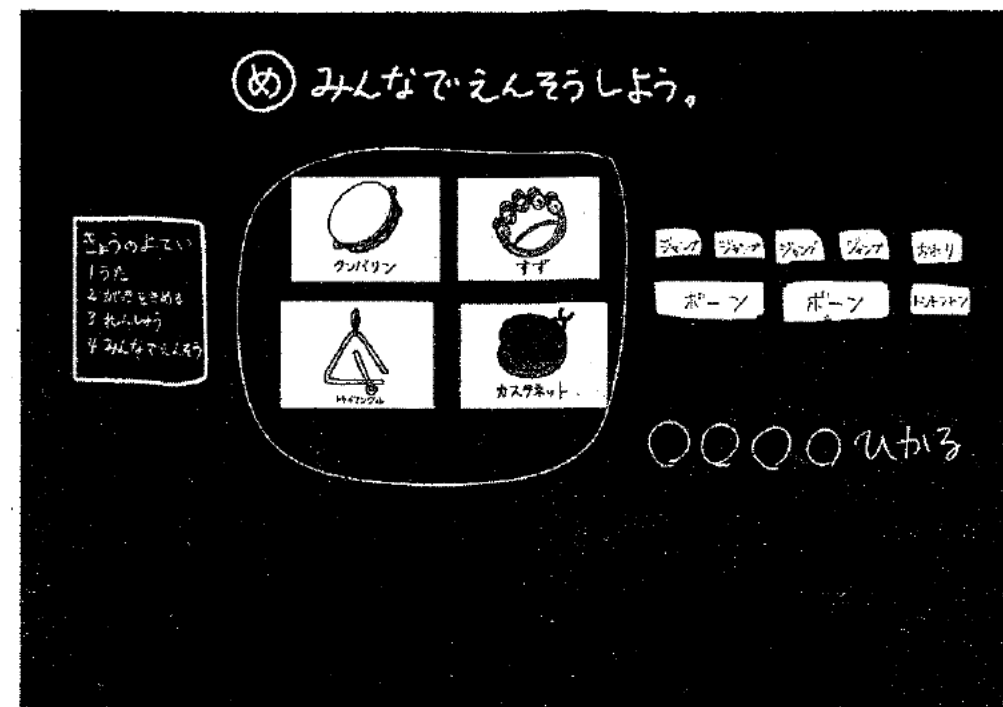
(2) 評価基準

A 十分に満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
自分で探した音を曲の中に取り入れ、自分の楽器のチームの音をよく聞いてリズムを打つことができる。	自分の楽器のチームの音をよく聞いてリズムを打つことができる。	自分の楽器のチームの音を聞き、動きを観察してまねっこしてみようと声かけする。

(3) 本時の展開(4時間中の3時間目)

学習過程	学習活動	○指導上の留意点 ※評価規準・評価方法
導入 (5分)	・「きらきらぼし」を歌う。	
展開 (35分)	④ みんなでえんそうしよう。 ・担当する楽器をくじで決める。 ・1時間目に使ったリズムカードを使ってリズムを手拍子する。 ・決めた楽器を使ってリズムを打つ。 ・楽器ごとに合わせる練習をする。 ・全員で合わせる。 ・音を工夫する。(音の大きさや打ち方を変えて音の出し方を変えたり、曲の最後に星をイメージした音を入れたりする。) ・楽器ごとに音を発表する。 ・全員で合わせる。	○手拍子で楽器ごとに打つ。全員で手拍子する、楽器を使って打つと言ったように少しずつ慣れるようにする。 ○リズムよく打つことが難しい児童には同じ楽器の音と人の動きを見るように声かけする。 ○最初はゆっくり合わせる。曲の入りはわかりやすいように「せーの」などの声かけをする。 ※自分で探した音を曲の中に取り入れている。(思考力・判断力・表現力) ○思いつかない児童には「きらきらって言う言葉を楽器であらわしてみよう」「この楽器でどんな音がなすことができるかな」と問いかける。 ○合奏の録音と録画をする。 ※一定のリズムを他のリズムと同時に演奏できる(知識及び技能)
まとめ (5分)	・録音した合奏を聴く。 ・感想を共有する。	

10. 板書計画



【ご高評価欄】